



世界の平和を創造する

「80回目 広島原爆の日」の平和式典で広島の2人の小学生が平和への誓いを読み上げました。ここで、その内容を紹介します。

いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。

同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。

原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことがありますか。

昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分。

この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。

誰なのか分からないくらいの皮膚がただれた人々。

涙とともに止まらない、絶望の声。

一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。

被爆から80年がたつ今、本当はつらくて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、直接話を聞く機会は少なくなっています。

どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。

大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。

その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。

多様性を認め、相手のことを理解しようとする事。

一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。

周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

One voice. たとえ一つの声でも、学んだ事実思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはず。

大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。

あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和をつくり上げていきます。

令和7年（2025年）8月6日

こども代表 広島市立皆実小学校6年 関口 千恵璃

広島市立祇園小学校6年 佐々木 駿

誓いを読み上げる2人の姿をテレビで観ました。2人の誓いの言葉、そして堂々とした姿を見て、心に熱いものが沸き上がりました。

今、世界のいくつかの箇所で戦争や紛争が起きています。亡くなった人、身内が亡くなり悲しんでいる人、怪我で動けなくなっている人、食べるものがなく苦しんでいる人、爆弾の下を逃げまどっている人などの姿を見て、本当に心が苦しくなります。平和な日本に生きる私たちは、悲しみ、苦しむ人がいない世界になるよう声を上げなければなりません。そして、宣言をした2人のように平和を愛するこどもたちを育てることが私たち大人の責任ではないかと思えます。